

續集卷之六

下

へ遠13
1164
35



特
1164
35

空の坂

木曾 街衛 續膝栗毛六編下巻

東都十返舎九著

山家のもの寂しく。松風の音耳よつとそ。夜も

縁しきぞ。あくる辰待う秋福田とら出へ。山道と

たどりく。漸く落合の歌ゆそ出らりる。持鼻の

ちや 女ども。けまを喰らるる。お舟きこまされく。

野 澤の生来たてもごごりしまよふなア。おそりり

書 色く。うご。ぐんさるる。安くらしき中せむら。

海 信 蔵

長 歌

木曾 街衛

東都十返舎九

夢ていぞわろせませ（経イヤク） 駕あいのり飽（あき）
気たうしく（ト） 寝るふ寝るふ（あ） けりつてまきり（あ） 「そんなまこと成らる
せざと。夢ていぞわろせませ。中んごうぶ
とまのもまはのひでいども入る夢こととせや。
夢ていぞわろせませ。来が一陣百せふ。うち
かつうあがけ申う。病氣を病ていぞわろせませ。肝が
あろろ。酒をせりまふ。のよ旦那ごうせく
いらせでのさる「ハテ」がのよ寝ていぞわろせませ。

あつよふふしう（あ） せんたう（あ） 寝飲さん
そろくろき程。あつていぞわろせませ。是がまこと
なまけてまこと（あ） 寝ていぞわろせませ。
まこといかにまのさのさ。寝ていぞわろせませ。まこといかにまのさのさ。寝ていぞわろせませ。 「サア」
お買なまこととさりませ。貴人の名方 抗膏菜
水道中あいの痛 今寝切ぬ程ととせませ。
おきうのま。ひとほりあてたをる事うけあひ。
あつて吸かうまのまひよせらるる。今持の書報を

ハテのまのさのさ

下二

さしひよせ。惣女中がさしひよせと吸よせ
奇妙希代。あつらひはよお費たつて
こらへあひま。かごの尻ちとまつて下入。
モその吸がうす女希代おらして。あつて
よりけり孫女も。さしひよせあつて孫
く。あつてそのおはあつてごうす。そんな
とわあ膏茶と紙へのをさす。小判へのはて
その女長に送付てかりなす。あつて吸よせ

中まで。あつてあつてそんなあつてあつて
女も吸よせるといふあつて
そまへりちあつてあつてあつて
味の茶を少。栗の強飯名物あり
渋皮のむけ。女へんえんごも
栗のこころ。あつてあつて
かつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて



さくら
金丸

おん
おん
おん

まの
の
の

下
田

下
田



十曲峠
孤膏茶

旅
人
の
道

下
田

「ヒヤア 落合の御者おんぢいのを申いますア。 こまきこのまき」ム、

ちぢうせう。にーせんぢうのよくぬげ ぬげ こまア おんせ 「そのぬげ

いでぬひつけにーふをばいがある。 さ りんをいやら

だろ うんち 「ようらどく。こまをあさぬ。酒をちくと

あかん さくま のがわく ちやを 「夏磨とらうらびをんら

ござろ ちんせ 「それでもようらむ。サア 御者おんぢいのぢや

ござろ なげ 「非 なげ 旦那 だんな ちくと申してら ト申して酒を

ござろ ちんせ 「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

「あつとあつとあつと うんち ことでも うんち

しんごの巻

一

どころしちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの
 アニさめらるゝアアアアアア。アアアアアアアアアアア
 のアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
 ねてさうちやうも。むいぶやアアアアアアアアアア
 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が
 アニ撞き糸が たぬまもやア。鳥が 撞き糸が 撞き糸が
 ぬゆも。アアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
 ころしちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの

さるのるも。撞き糸どのとららさめんて。そこで
 鳥が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が
 ころしちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの
 で撞き糸がさつもすめよしの。アアアアアアアアア
 ねてさうちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの
 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が
 たぬまもやア。鳥が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が
 ぬゆも。アアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

しんごの巻

一

一 撞き糸の中へく 撞き糸 小

たぬまもやア。鳥が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が
 ぬゆも。アアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
 ころしちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの
 で撞き糸がさつもすめよしの。アアアアアアアアア
 ねてさうちやあざんまゐ。けねんがさつもすめよしの
 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が 撞き糸が



式磨

石

月

松

樹の

夕



馬込峠

室吉

寺

石

写

山

石

馬込峠

ふとくえゆるハ男勝なるべし
 そとよりる義味とすさゆふ今朝福田
 たち出さしり。口りるはあて。落合まで出るた
 る色ごごく。彼是隙しりするれが。あひひの介
 及の程。たろごごご。たわけ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 七りの日ご。さきだて。妻。董。者の。宿。ひ。さ。し。も。
 ぢ。と。男。が。さ。ら。を。吸。う。け。E。と。く。あ。ま。し。う。ぐ。り。妻
 董。お。と。も。り。で。や。さ。れ。づ。ご。り。志。や。さ。ら。う。う。り。め。り。

あ。と。め。り。で。よ。う。う。き。と。う。あ。お。出。ま。い。う。い。や。と。り
 ち。と。く。定。宿。が。あ。り。や。ま。い。う。り。や。何。を。さ。や。何。を。さ。も
 き。さ。も。さ。ら。の。甘。酒。あ。や。ア。な。ら。し。移。入。う。り。ち。あ。う。て
 あ。ま。し。う。は。い。や。に。い。ま。は。い。あ。ま。し。う。あ。つ。て。ま。い。い。めん
 づ。ん。て。こ。う。あ。い。お。し。や。や。あ。ま。し。う。と。あ。う。も。移。入
 ち。あ。や。移。入。宿。り。さ。ら。ち。あ。の。り。の。移。入。こ。う。ち。あ。の。り。の
 ご。う。う。ご。ご。ご。でも。持。ち。ま。い。い。い。き。さ。ら。ぬ。の。ご。ご。ご。う。り
 是。非。と。ま。し。う。あ。や。ア。な。ら。し。移。入。と。り。い。ま。も。あ。る。め。

あさあがりて。はら。くくく。んぞ。中らもあせりあるゆゑに。
さんよ。うら。出。て。お。い。さ。

御身の宮へさそあれた者ひきの

あー。も。と。あ。ぎ。ど。に。が。ら。あ。う。は。

かくて自由酒の山の端よか。うらんとするふ。

ふ。う。り。の。急。ぎ。坂。乃。と。く。ら。る。ふ。
このころ十七八あり
女は江戸でのどんな

剛志。三人づきあてふ。うらりの。ナント。ん。な。ん。女。の。尻。を。あ。つ。て
さ。う。ん。と。ち。て。め。く。ま。あ。は。じ。て。

ゆ。く。し。ろ。つ。ま。り。さ。も。も。こ。ら。く。孫。入。め。の。い。だ。コウ

婦。さん。う。ら。お。り。ん。が。さ。あ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
圓者の中あて
ごまのどんな

ア。イ。コ。ー。ご。も。の。奥。あ。ら。う。う。出。来。か。ー。い。り。や。ま。を。あ。つ。て

ふ。う。り。の。急。ぎ。坂。乃。と。く。ら。る。ふ。
このころ十七八あり
女は江戸でのどんな

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

圓。志。よ。は。げ。ん。出。来。か。ー。の。い。り。や。ま。を。あ。つ。て
このころ十七八あり
女は江戸でのどんな

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

あ。さ。あ。ら。う。う。い。な。ま。の。あ。ら。う。う。ひ。き。り。女。の。尻。を。あ。つ。て

けんがのふらふら^まの^まを^ま中^まに^まそれ^まの^まハ^ま。ま^まも
 よんこ^まの^ま中^まで。ア^まん^まな^まさ^まろ。ち^まん^まを^まひ^まいて。
 ま^まに^まち^まな^まの^まに^まア^まな^まれ^まど。路^ま後^まが^まち^まの^まに^ま
 でお^まら^まろ^ま。あ^まち^まう^まは^まら^まい^まも^まあ^まら^ませ^まめ^まに^ま
 こ^まの^まち^まの^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 ぞ^まこ^まの^まに^まい^まら^まい^ま。あ^まん^まな^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 と^まの^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 こ^まの^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま

り^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 同志^まの^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 の^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 ふ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 り^まに^まあ^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 女^まを^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 女^まを^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 女^まを^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま
 女^まを^まら^まい^まの^まに^まら^まい^まの^まに^まら^まい^ま



乙未年
二月
廿三日

しんごく... 史記... 漢書...

そらもさごらふ。是でなんぞかつてくろくがくく

くの二百又と申す女^{コリヤ}ハア由みようずり^オオらうが

少^ももさごらふがありしゆのさ。りそ^の者^{もの}のいそは

で。あまういれてあまうら。もがたうくあまう。サア

いさん。ちこいそでやそ^ト女^のたうけあけつてゆく。むうへよ

合梅^合はサ^合てむらりのつこも。いけいけあけつてくろく

あまうこ^のやふ^とあまうこ^にア^まく^に獲^とハ^なら^ずめて

ふらふのん^のやあら^はい^はん^のテ^に今^ののあまのこ

どもがらひあむこもあんまふらけつてやこく

ありや^を國^を國^を者^者ち^ちご^ご申^申つ^つや^や見^見の^のあまのい

つとことむさういあひて。候^ののさの教^ををらん。復^も

戸^のの灰^をや^まど^をふ。免^はは^なれ^ぬぬ^るよ^もい^ののよふ

ありあてももんま^をを^を國^をう^うあ^あま^まご^ごづ^づれ^れで^であ^あて

月^もあ^あつ^つこ^この^のり。それづけの^の野^をが^がう^うあ^あて。何^のの^の中^のの

出^はあ^ある^るの^のん^んの^の。それ^はや^やこ^この^のあ^あま^まの^のふ^ふら^らい^いを^をん^ん。

まう^とあ^あり^りあ^あて。候^のん^んと^とあ^あて。あ^あま^まの^のあ^あま^まを^をま^まこ^こら^らい^いち^ち

上野 山崎のふらう。おきでいへ 階合をいふ ^{つまひ}「さ。の
 くらでいひのやと ^{上野}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 へとも ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 それで ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 み合 ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 上野 ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 サ ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 お ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お

お ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 上野 ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 サ ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 お ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 上野 ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 サ ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 お ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 上野 ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 サ ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お
 お ^{はな}「おまへ ^{はな}「おひがら ^{はな}「お

上野 山崎

上野 山崎



まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 かぢりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 女よ。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 トふと。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 男の文様
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア

トふと。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア
 まじりし。いかにいんちんぢのりおほし。おアアア

よまらるるありハチおまの書競いぶら。けんり
 うしてあふふ。よりくいなけかえとらり。コレヤ
 おまの書でなるとんやまけ人が親のよする紙と
 おまの書におまの書と。しらぬおまの書とてんや
 るう。親の書とて親のよする紙とてんや
 の書とてんやとてんやとてんやとてんや
 おまの書の書とてんやとてんやとてんや
 の書とてんやとてんやとてんやとてんや

おまの書の書とてんやとてんやとてんや
 じよやうじよやうとてんやとてんや
 うとてんやとてんやとてんやとてんや
 のとてんやとてんやとてんやとてんや
 そろそろそろそろとてんやとてんやとてんや
 とてんやとてんやとてんやとてんや
 女節とてんやとてんやとてんやとてんや
 とてんやとてんやとてんやとてんや
 中ちゅうや

Vertical text on the left margin of the first page.



Vertical text on the right margin of the second page.

Vertical text on the right margin of the second page, possibly a page number.

しんせいせいせい

十一

うう。だまうて安(やす)してめし(めし)ぶ。おしく(おしく)な(な)る(る)わ(わ)あ(あ)ら(ら)も

後(ご)猿(さる)お(お)め(め)ご(ご)「アニ(アニ)る(る)ま(ま)つ(つ)ア(ア)お(お)ど(ど)く(く)」ト(ト)ん(ん)で(で)ら(ら)り(り)

あて(あて)ひ(ひ)ま(ま)ま(ま)う(う)あ(あ)の(の)う(う)ま(ま)い(い)ま(ま)あ(あ)う(う)と(と)

けい(けい)も(も)う(う)ぶ(ぶ)の(の)ま(ま)ま(ま)も(も)ま(ま)ま(ま)い(い)の(の)ま(ま)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

あ(あ)の(の)ま(ま)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)ト(ト)う(う)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

わ(わ)く(く)も(も)女(おんな)あ(あ)ら(ら)も(も)ま(ま)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

わ(わ)ら(ら)ひ(ひ)な(な)る(る)わ(わ)ら(ら)ひ(ひ)あ(あ)ら(ら)り(り)

わ(わ)ら(ら)ひ(ひ)あ(あ)ら(ら)り(り)ト(ト)う(う)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

が(が)畢(つひ)九(きゅう)と(と)と(と)こ(こ)り(り)て(て)ら(ら)く(く)だ(だ)ま(ま)ご(ご)く(く)

う(う)ら(ら)ぬ(ぬ)。「(「)わ(わ)あ(あ)の(の)あ(あ)ま(ま)の(の)き(き)ん(ん)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

よ(よ)ら(ら)ぬ(ぬ)。「(「)わ(わ)あ(あ)ら(ら)り(り)ま(ま)ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)

ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)が(が)う(う)ら(ら)ぬ(ぬ)も(も)も(も)も(も)も(も)

ま(ま)あ(あ)ら(ら)り(り)「(「)あ(あ)ら(ら)り(り)せ(せ)あ(あ)ら(ら)り(り)

い(い)や(や)あ(あ)ら(ら)り(り)「(「)あ(あ)ら(ら)り(り)せ(せ)あ(あ)ら(ら)り(り)

く(く)あ(あ)ら(ら)り(り)「(「)あ(あ)ら(ら)り(り)せ(せ)あ(あ)ら(ら)り(り)

あ(あ)ら(ら)り(り)「(「)あ(あ)ら(ら)り(り)せ(せ)あ(あ)ら(ら)り(り)

しんせいせいせい

十一

この本は...

...

この本は...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

